

平成29年度 WAM助成金

事業事例のご紹介

NPO法人 STORIA





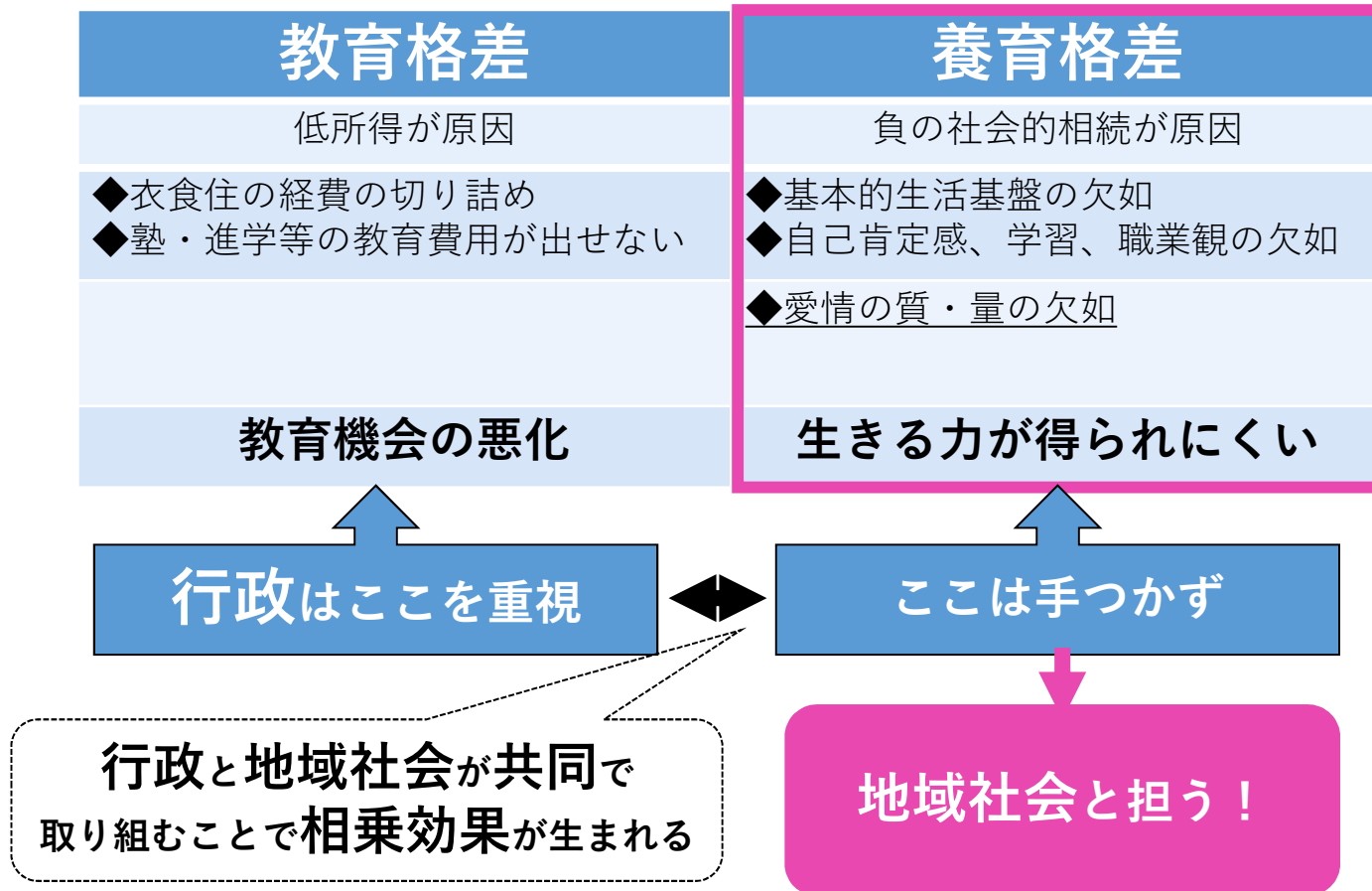
団体概要

- 設立：2016年4月、宮城県仙台市にてSTORIAを発足
- 目的：「子どもの貧困」貧困の世代間連鎖を断ち切る
- 活動内容：「子どもの生きる力を育む居場所づくり」
 - ①子ども：学習・食育・体験学習の複合的なサポート
 - ②保護者：家庭支援とソーシャルワーク
 - ③連携：家庭と子どもの見守りができる地域の連携体制の構築



マクロ調査とミクロの支援を行う上で 分かった現実的な課題

教育格差への対応のみならず、養育格差へも対応が必要





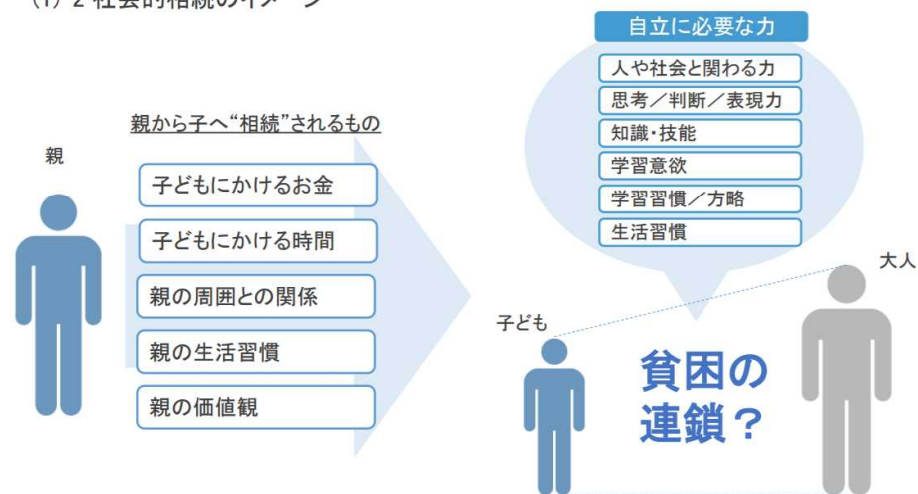
貧困の連鎖を断ち切るには

負の社会的相続を変えるには、 低年齢期に着手する必要がある

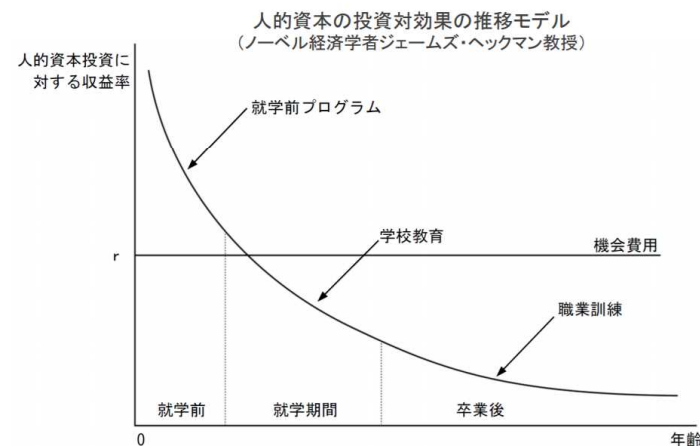
貧困を背景とした親から子への「負の社会的相続」が、将来の自立する力を奪う可能性(=貧困の連鎖)

社会的相続は、低年齢期に行われれば行われるほど効果的である可能性が高い

(1)-2 社会的相続のイメージ



(1)-3 低年齢期に支援することの有効性





事業申請時の課題

■ 課題

① 貧困の連鎖

- 生活保護世帯の4割は、出身世帯で生活保護経験を持つ。
(2011年7月「生活支援戦略 中間のまとめ」厚生労働省)
- 保護者がダブルワークで時間的・精神的余裕がない、また、精神疾患等で十分な養育ができない現状がある。保護者も貧困の中で育ってきたケースが少なくない。

② 子どもの「食」をめぐる環境の悪化

- 日々の活動を通し、食事の偏りと孤食が小学生の間で目立ってきている。
- 親からわずかなお金をもらい、ファーストフードやスナック菓子を家で一人で食べる子どもがいた。

③ 事業成果が見えにくい

- 「どのくらいの成果がでたか」を数値等の目に見える形で表すのは困難であるため、有効性が分かりにくく、企業や行政との連携が得にくい。



STORIAの解決コンセプト

地域と連携した支援施策を実施し、

効果検証を行いながらモデルを構築・拡散する

- 1) 小学生に対し、「生きる力」を育む拠点を地域に設ける
- 2) 地域と連携し、子どもと家庭を包括的に支援する
- 3) 効果検証を行った解決モデルを構築し、全国へ拡散する



事業概要



事業内容：食育（こどもキッチン）

支援内容）簡単な料理や準備、後片付け方を身に着ける



■ 目的：愛情のこもった食事と会話で子どもの精神的安定を図る。簡単な調理スキルを身に着ける

地域や学生ボランティアと当日の食材にまつわるエピソードや学校での話等、家庭的な雰囲気の中で食事を楽しむことを大切にしている。

季節に応じて、子ども達が自分でできる簡単な調理を行い、料理の楽しさも体験する。



事業内容：学習支援

支援内容) 宿題サポート：学習習慣を身に着ける



宿題をしている様子



宿題をしている様子



子ども達同士で教え合う様子



■ 目的：学習習慣と基礎学力の習得

宿題を中心に基礎学力の定着を図った。宿題が終わると、こちらで用意をした学習プリントに取り組む子どももいるが、帰る頃まで宿題に取りかかれない子どももいた。高学年の子どもが低学年の子どもに教える「学校ごっこ」等、互いに教え合うことが、自然な形で行われ始めている。



事業内容：体験プログラム

■目的

- ①多くの大人と触れ合いながら自分の強みを発見する
- ②「考える力」「協働する力」「伝える力」の向上を図り、
社会的自立に必要な土台を形成する

■実施回数：月に1～2回



電車でお出かけ



蕎麦打ち



科学館体験



事業成果



定量的な子どもの変化

全項目において、子どもに変化が見られた

目標項目	目標数値	実際の数値
① 生活力の向上 自主的に家事を手伝う姿勢と基本的な家事スキル	70%	100%
② 自己肯定観の向上	70%	70%
③ 子どもが調理できるメニュー数	12品	15品
④ 子どもの出席率	70%	93%



自己肯定感の測定

- 東京都の「自尊感情測定シート」を使用。
- 支援を開始時、年度終了時の測定を行い、変化を調査している。
- この他、保護者からのアンケート調査も実施している。

「自尊感情測定尺度(東京都版)自己評価シート」「他者評価シート」

自己評価シート		22項目	他者評価シート		24項目
項目	No.	項目	項目	No.	項目
A	1	自分が他人と異なる価値観を持っている。	1	1	自分が他人と異なる価値観を持っている。
B	2	自分が他人と異なる価値観を持っている。	2	2	自分が他人と異なる価値観を持っている。
C	3	自分が他人と異なる価値観を持っている。	3	3	自分が他人と異なる価値観を持っている。
A	4	自分が他人と異なる価値観を持っている。	4	4	自分が他人と異なる価値観を持っている。
B	5	自分が他人と異なる価値観を持っている。	5	5	自分が他人と異なる価値観を持っている。
C	6	自分が他人と異なる価値観を持っている。	6	6	自分が他人と異なる価値観を持っている。
A	7	自分が他人と異なる価値観を持っている。	7	7	自分が他人と異なる価値観を持っている。
B	8	自分が他人と異なる価値観を持っている。	8	8	自分が他人と異なる価値観を持っている。
C	9	自分が他人と異なる価値観を持っている。	9	9	自分が他人と異なる価値観を持っている。
A	10	自分が他人と異なる価値観を持っている。	10	10	自分が他人と異なる価値観を持っている。
B	11	自分が他人と異なる価値観を持っている。	11	11	自分が他人と異なる価値観を持っている。
C	12	自分が他人と異なる価値観を持っている。	12	12	自分が他人と異なる価値観を持っている。
A	13	自分が他人と異なる価値観を持っている。	13	13	自分が他人と異なる価値観を持っている。
B	14	自分が他人と異なる価値観を持っている。	14	14	自分が他人と異なる価値観を持っている。
C	15	自分が他人と異なる価値観を持っている。	15	15	自分が他人と異なる価値観を持っている。
A	16	自分が他人と異なる価値観を持っている。	16	16	自分が他人と異なる価値観を持っている。
B	17	自分が他人と異なる価値観を持っている。	17	17	自分が他人と異なる価値観を持っている。
C	18	自分が他人と異なる価値観を持っている。	18	18	自分が他人と異なる価値観を持っている。
A	19	自分が他人と異なる価値観を持っている。	19	19	自分が他人と異なる価値観を持っている。
B	20	自分が他人と異なる価値観を持っている。	20	20	自分が他人と異なる価値観を持っている。
C	21	自分が他人と異なる価値観を持っている。	21	21	自分が他人と異なる価値観を持っている。
A	22	自分が他人と異なる価値観を持っている。	22	22	自分が他人と異なる価値観を持っている。

1 児童・生徒が22の質問項目で自分の気持ちに近い番号を回答する。
 2 回答結果を専用の集計表に入力する。
 3 集計結果は三角形のレーダーチャートで表され、自尊感情の3観点の傾向を把握する。
 4 集計及び個別の結果は学級経営や教科指導の指導資料として活用する。

1 教員や保護者などが児童・生徒の行動を観察し、24項目で現状に近い番号を回答する。
 2 回答結果を専用の集計表に入力する。
 3 集計結果は六角形のレーダーチャートで表され、6つの観念の傾向を把握する。
 4 結果を基に指導の手だてを焦点化し、指導に生かす。

東京都の「自尊感情測定シート」

<2018年3月末での測定結果>

	A自己評価・自己受容			B関係の中での自己			C自己主張・自己決定		
	今回	前回	差	今回	前回	差	今回	前回	差
全体平均	3.42	3.20	0.22	3.64	3.57	0.07	3.76	3.71	0.05



子どもの変化：A君



母子家庭で2人兄弟という家族構成。児童扶養手当を受給し、学校では友達へ暴力を振るい、学習を一切しない、学校外では万引きを行う等、母親や先生もA君の対応や子育てにとっても悩んでいた。母親は経済的にも精神的にも余裕もなく、いつもA君を叱り飛ばしていた。

<支援の経緯>

2016年
受け入れ開始

- 町内会役員からの紹介で入会。
- 学校で問題行動を起こしている状況のため、保護者が養育についてとても悩んでいた。

2016～2017年
個別対応

- 居場所でも感情のコントロールができずに暴力を振るってしまったり、居なくなったり、学習は一切しないという状況で個別対応開始。
- 専属スタッフ1名とカウンセリングスタッフ1名で対応。

2017年
保護者支援

- 保護者との密な面談により、子どもの対応方法についてアドバイス。
- 発達障害の可能性が見えたため、専門機関を紹介。

現在

- 発達障害の診断あり。
- 居場所、家庭でもA君に沿う対応を行ったため、精神的安定が得られ、学校でも家庭でも問題行動がほとんど無くなった。
- 現在、プログラミングに夢中。

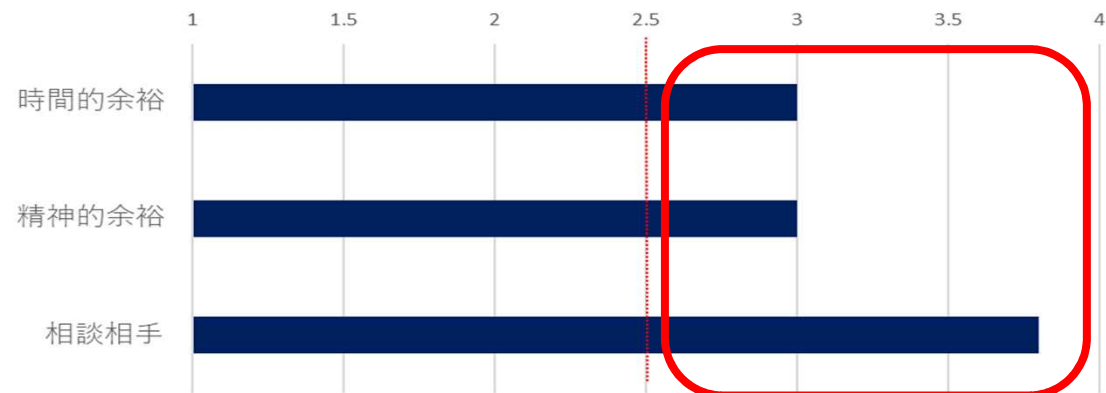


保護者の変化：アンケート

■時間的・精神的余裕ができ、相談相手が増えた

保護者の85%が「相談相手が増えた」、15%が「やや増えた」と、全員がプラスの回答をしている。これは、相談支援員との定期的な面談の他、保護者同士や町内会の方々との関係性も回を重ねるごとに深まっていることが要因と思われる。お迎えの後、保護者同士の情報交換や相談をし合う様子、保護者が相談支援員や町内会の方に子育ての相談をする光景等もよく見られる。これらが、保護者の精神的余裕へ繋がっていると考えられる。

保護者の変化





連携による変化と効果

①町内会との連携

- ・心配なご家庭に繋がる可能性が高くなった。
- ・活動以外の日でも家庭や子どもの見守りができている。
- ・町内の高齢の方々に参加してもらい、やりがいや生きがいを持ってもらえている。



町内の方々と家具作り

②企業との連携

- ・企業から体験学習の機会やご寄付を頂くことで、社内に「子どもの貧困」課題の認知が広がった。
- ・プロボノとして参画していただく方が増えた。



企業の方へ活動報告会

* 学校・専門機関との連携は当然という前提において、その他の効果を記載。



成果を上げるための工夫



成果を上げるための工夫

1 ボランティア・スタッフの人材育成研修の強化

- ①子どもや保護者の置かれている背景や心理を理解する
- ②STORIAとしての理念（哲学）の浸透の機会
- ③ボランティア・スタッフが活動を振り返り、改善を行う場

■ 月1回の実施

■ 全4回コース

- DAY1 貧困の連鎖を愛情の連鎖へと変える
- DAY2 愛着を育むとは
- DAY3 自己肯定感を育む大人との関わり方
- DAY4 挑戦を支える関わり方





WAM助成金 応募について



事業計画立案のポイント

問題を深掘りし、「真の課題」を発見する

1 現状把握

- ・ 取り組む問題に関連する、国や自治体の定量的な数値、政策を把握する。
- ・ 受益者や現場・地域にいる方々からのヒアリングを行う。

2 課題の深堀

- ・ 表層的に見えている問題から、なぜそれが起きているのかを紐解く。

3 打ち手の仮説を立てる

- ・ どこの課題を解決することが早く・効率よく、みんながハッピーになれるゴールに到達できるのかを考える。
- ・ その打ち手によって、どんな効果が生まれるのか、生ませたいのかをできるだけ具体的に考える。



事業計画立案のポイント

下記の項目を意識して事業を立案

- 1 団体の目指すビジョン、長期・中期・短期の戦略に沿っているか。
- 2 その事業は、受益者にとって最善の方法か。
- 3 その事業は、ステークホルダーにとっても益となるか。
- 4 その事業は、ユニークでモデルとなり得るか。
- 5 その事業は、自団体の強みを生かせるか。
- 6 その事業は、実現可能か、継続性があるか、発展性があるか。
- 7 その事業を行うことでの効果を具体的に言えるか。（仮説でOK）



まとめ：成果を出すためのポイント

- ① 根本的な課題を的確に捉える
- ② ビジョンと目的の浸透と人材育成
- ③ とにかく、振り返りと改善を常に行う

* 効果検証できる指標を各団体様で作成する



STORIA's Vision & Mission

< Vision >

貧困の連鎖を断ち切り、「支えられる人」から
「支える人」へと愛情が循環する社会を作る

< Mission >

経済的困難を抱えた子ども達が、困難を乗り越え
生き抜く力を育む環境を提供する